

総務文教委員会記録

令和5年3月8日（水）
13時15分～15時27分
第1委員会室

【委員】 永見委員長、三浦副委員長、
肥後委員、大谷委員、芦谷委員、佐々木委員、西田委員
【議長・委員外議員】
【事務局】 松井書記

【議題】

- 1 はまだ議会だより読者アンケートに寄せられた意見等への対応協議について
【Vol.68 2月号】（委員間で協議）
- 2 取組課題について（委員間で協議）
- 3 その他

【議事の経過】

[13 時 15 分 開議]

永見委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。レジュメに沿って進める。

1 はまだ議会だより読者アンケートに寄せられた意見等への対応協議について

【Vol. 68 2月号】（委員間で協議）

永見委員長

3月6日の委員会で皆から伺った意見をもとに副委員長に回答をまとめてもらった。配信したものを確認し、修正点等あればお願いします。

芦谷委員

1番の少子化対策について、市長も答弁されたように、今の少子化対策は国がしっかりやらなければいけない。最後の「総合的な支援の必要性を求めていきます」を「抜本的な少子化対策を構築するよう求めていきます」としてはどうか。このまま執行部なり国がすることを是認するだけでは少子化問題はクリアできないと思う。

2番は、「地域の安全安心づくり」というキーワードがあったほうがよいと思う。専ら自助・共助だけに頼るのではなく、行政として体制側として地域の安全安心づくりの整備も必要だと思う。したがって、「地域の安全安心づくりの環境を整備するとともに、自助・共助による対策の推進を求めていく」としてはどうか。

三浦副委員長

地域の安全安心はもちろんだが、それを求める意見ではないと思う。高齢者が一人であることが不安なので、カメラインターホンを設置すれば見守りなどがスムーズに行くのではないかという意見だと思う。芦谷委員の意見も大事なことなので、そこまで広げて書いてもよいが、どうだろうか。

芦谷委員

このままでもよいと思うが、文字間にある要望者の意見は、それを行政が受けとめて地域を俯瞰して全体的に安全安心な環境をつくることが求められている感じがするので言ったが、このままでもよいと思う。

佐々木委員

つけ加えてもどちらでもよいとは思いますが、自助・共助による対策の中に地域の安全安心も含まれているし、そのほかにも含まれていると思う。広く捉えられるような内容になっているので、これでもよいと思う。

芦谷委員

あえて市の能動的な気持ちを表すために地域の安全安心づくりのことが入ったほうがよいと思ったが、それは皆の判断に任せる。

永見委員長

2番については皆から意見がいろいろあったが、地域の安全安心はこの中に含まれていると思うので、「自助・共助による対策の推進」という形でやらせていただきたい。よろしいか。

（ 「異議なし」という声あり ）

では、今の文案どおりやらせてもらう。なお、1番について芦谷委員から「総合的な支援の必要性を求めていきます」ではなく「抜本的な少子化対策を構築するよう求めていきます」という案が出たが、これはどうだろうか。

佐々木委員

浜田市の少子化対策は日本でもかなり先進的なところを行っているということで、市長が自民党の参議院の部会に呼ばれて先進事例として話したと聞いている。抜本的に変えなさいとなると、あまりにも浜田市が

後れているようなイメージにも取られかねないので、誤解がないような表現で「総合的な支援の必要性」でよいのではないか。意見を出された方の言葉を受けながら、なおかつ市が現状やっていることも認めながらという表現でよいと思う。あまりへり下ったことを言って、かえって浜田市がやってないように捉えられてもいけない。

永見委員長

1番は、今ここに提案している内容のまま進めてよいか。

(「異議なし」という声あり)

ではこのようにさせていただく。3番、4番について意見はあるか。

(「なし」という声あり)

では、3番と4番はここに提案した文面で議会広報広聴委員会へ提出する。ここで暫時休憩する。

[13時 26分 休憩]

[15時 21分 再開]

2 取組課題について（委員間で協議）

永見委員長

今後の取組課題について、前回皆からいただいた意見は「子どもの居場所づくりについて」が多かったが、皆と協議して決定したい。改めて意見を伺いたい。

佐々木委員

残り半年の委員会の任期の中で、子どもの居場所について何ができるかいろいろ考えたが、先般も不登校の先進事例を視察した経緯があり、特に不登校の子どもたちが増える現状の中で、少し努力すればできる支援がないかを提案したい。具体的には浜田市の山びこ学級、これは教育支援センターという位置づけだが、それと隣接している青少年サポートセンターが居場所として、学習支援とはまた別の意味合いになるが、この二つの関係性をさらに重ねることによって、より機能が評価できないか。学校に行けない子どもたちがこういった施設で学ぶことによって、居場所をつくって人と関わって、できれば学力をつけるような取組ができないか、そういった支援をこの二つの機能をつくることによって、浜田市が何かしら子どもたちに支援ができないかということはこの委員会で検討して、できれば秋くらいに提言できればと思うが、どうか。

永見委員長

不登校の児童生徒への支援について調査するという提案があった。皆はどうだろうか。

(「異議なし」という声あり)

では、今伺った意見のように、「不登校の児童生徒への支援」ということで取組課題を決定し、今年10月までの任期中に提言に持っていければと思う。

三浦副委員長

先日議長からあったように、所管事務調査という扱いで委員会で取り組む、その中でゴールは提言になるか、ほかの形になるのかは調査の内容によると思うが、それでよいか。

佐々木委員

やったことは提言に至らずとも、委員会で調査研究した一つの要望として、所管の教育委員会には報告するべきと思う。

永見委員長

では、今後の取組課題については、不登校児童生徒への支援として進める。よろしく願います。

3 その他

永見委員長

ほかに委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

ないようなので、以上で総務文教委員会を終了する。

[15 時 27 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 永見 利久